

令和5年度第4回京田辺市社会教育委員会
会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 活動報告について

第2回京田辺市複合型公共施設整備基本構想検討懇話会の報告を田中委員長が行った。

(委員) 施設で何をやりたいのか。大切なのは、どんな人を集めるか。若い人を呼びたければ、若い人が集まる施設が必要

(委員) 市は、500席～600席規模のホールを考えているが、もう少し大きいホールを希望する。

(2) 山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

姫路副委員長がレジュメに従い、発表を行った。

(3) 京田辺市の社会教育について

資料の概要について、事務局が説明

(事務局) 改正を進めている生涯学習推進協力員に、コーディネーター資格の取得を促していきたい。

(委員) コーディネーター資格を持っている人で、埋もれている人を見出して欲しい。生涯学習推進協力員は、地域の推薦を前提としているが、一般公募して欲しい。

(事務局) 地域とかかわりを持っている人に生涯学習推進協力員をして欲しいので、一般公募でなく地域からの推薦を想定している。同じ人に何年も役を担ってもらいたい。

(委員) 同志社大学を退職した教授や退職校長を社会教育課が中心となって集めて欲しい。

(委員) 堺市や摂津市といった、市でコーディネーターを育てている市もあると事務局の説明にあった。遠い将来は、京田辺市もコーディネーターを育てられるよう目指したい。

(委員) 同志社とのかかわりについて、学生・地域双方メリットのある提案をしていきたい。学生に地域にかかわり、いろんなことを得てもらいたい。学生が、参加して良かったと思える提案をしたい。

(委員) 京田辺市は、同志社をはじめ色々な大学とかかわっている。広報紙で初めて知った。

(委員) ピンポイントでイベントをしているが、大学を市民が身近に感じる関係には程遠い。

(委員) 学生にとって、指導経験は大事。K D S Cは貴重な経験

(委員) 学生が市に求めるものは何か。何もないのではないかな。単位をもらえるから、就活に役立つから市のイベントに参加しているだけではないか。

4 その他

次回会議について

5 閉会 副委員長あいさつ